

## 令和7年度第2回総合教育会議 議事録

1. 開会日時 令和8年3月23日（月） 13時30分～14時40分
2. 会議場 松浦市役所別館青プラザ3階 保健センター研修室
3. 出席者
 

松浦市長	友田吉泰	
松浦市教育委員会	教 育 長	黒川政信
松浦市教育委員会	教 育 委 員	石黒修子、前田弘子、吉住正和、氏山智美
〔事務局〕	教育総務課	教育次長兼課長 土谷由子
	学校教育課	教育次長兼課長 佐藤利枝
	生涯学習課	課長 中野正和
	文化財課	課長 内野義
	教育総務課	課長補佐 宮本京平
4. 内容
  - (1) 市長挨拶
  - (2) 教育長挨拶
  - (3) 協議
    - ①「教育のまち 松浦」をつくるための取組について
      - ア. あいさつで心かよう松浦
      - イ. 奉仕活動で心みがく松浦
  - (4) その他
5. 傍聴人 無
6. 発言の詳細 以下のとおり（要点記録）

【発言者】	【内 容】
教育総務課長	<p>それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和7年度第2回総合教育会議を開催いたします。初めに友田市長がご挨拶申し上げます。</p>
市長	<p>改めまして皆様こんにちは。本日は令和7年度の第2回松浦市総合教育会議ということで、教育委員の皆様方と私との会議を通じて、教育行政をどう市長部局と融合させていくかということで協議を進めて参りたいと思っています。今日の協議事項については、私の方にどういったテーマでと教育総務課長からありました。改めて、私自身も1月25日に執行されました市長選挙で3期目の当選を果たさせていただきました。その際のマニフェスト、ともだビジョンの中にも、教育長との意見交換の中で、生きる底力を育む教育の推進ということを掲げておりました。これを具現化していくのが3期目の大きな取り組みかなと思っている中で、改めて第3期松浦市教育振興基本計画を見直した時に、後程具体的なテーマになってこようかと思っておりますけども、松浦市における教育の基本的な考え方の中で、「教育のまち松浦」をつくるために、というのがございまして、「あいさつで心かよう松浦」、「奉仕活動で心みがく松浦」というものがあります。まさに、大人が手本を示して、子どもたちがその姿を見て、しっかり学び育っていく。松浦市の総合計画に掲げる「育つ・つながる・根をおろす」の中では非常に重要な取り組みかなと思いますし、やはりあいさつがしっかりできる大人っていうのは仕事もできるというか、私の偏見かもしれませんが、そういった思いを持って</p>

	<p>おりますので、そういった取り組みを、ぜひ行政の中でやっていくという意味では、本日のこのテーマというのは、私の3期目のスタートとしては非常に重要なテーマではないかなと思ひまして、皆様方とこのテーマについて協議をしたいと思ひ、掲げたところでございます。具体的な中身については、後程の協議の中で進めて参りたいと思ひますけども、子どもたちの活躍が非常に目覚ましくて、小学生、中学生のスポーツ大会、文化も含めて、全国大会に出場するという子どもが本当に年々増えているなというふうに思っています。子どもの数は減っているにもかかわらず、それだけ熱心な子どもたちが増えている。そういったものも非常に誇りであるのですが、今日の新聞では、松浦高校の田川君がなぎなた男子で日本一になったというのもありましたし、そういった、高校生まで本当に松浦出身でいろいろ頑張ってくれている。そういった子どもたちが松浦を担っていくときに、大人たちがちゃんと環境を作ってくれていたなと思えるような取り組みをしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>教育総務課長 教育長</p>	<p>続きますので、黒川教育長からご挨拶をお願いいたします。 教育委員会を代表しましてご挨拶申し上げます。本日は本年度2回目となる総合協議会を開催していただき誠にありがとうございます。今、市長からありましたように、今回は「あいさつで心かよう松浦」、「奉仕活動で心みがく松浦」という、教育のまち松浦を支える2つのことを取り上げていただき、ありがとうございます。あいさつと奉仕活動の2つは、生きる底力を育む学校教育の根底にもあるものだと考えています。さらには、地域の活性化のためにも、そしてふるさと松浦の発展のためにも重要課題と考えております。本日は有意義な時間になりますよう、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>教育総務課長 市長</p>	<p>それでは、これから協議に移らせていただきますが、議長は市長が務めることになっております。よろしく申し上げます。 はい。それでは本日の協議を進めて参りたいと思ひます。テーマは「教育のまち松浦」を作るための取り組みについてです。まず2つに分けて進めたほうがいいかなと思っておりますので、まずは「あいさつで心かよう松浦」について、教育委員会の取り組みをご説明いただけますでしょうか。教育長、お願いします。</p>
<p>教育長</p>	<p>はい。まずあいさつについてですが、いわゆるコロナ禍前といいますか、平成20年代は、転勤で松浦にこられた警察の方とか、電発等企業の方から、松浦の子どもたちはよくあいさつしますねという声を聞いていたのですが、現在はその声を全く聞かないということではないのですが、少し減っているなと私自身は考えています。コロナ禍のマスク生活も影響しているのかなと思うのですが、校長研修会などでも、やはり子どもたちにはしっかりとあいさつができる子どもたちになってもらいたいということで、校長研修会など指導しているのです。お手元にありますのは、昨年の7月に校長研修会で配ったものになります。2学期の充実についてということで、あいさつと奉仕活動の充実ということを話したところですが、あいさつのところを見ていただくと、あいさつの6つの効用、これは私が毎年、先生方に話していることなのですが、基本的な生活習慣の第1歩ですよということで、①、あいさつはコミュニケー</p>

	<p>ションの第一歩。まずはとにかく人と知り合って、仲良くなる第一歩はコミュニケーション、あいさつがそのスタートです。②、あいさつは思いやりの第一歩。これは、あいさつをするということ、あなたの存在を認めていますよということで、そういった思いやりの第一歩ですということです。③、あいさつは、信頼の第一歩。先ほど市長がおっしゃいました、あいさつがよくできる人は仕事ができるのではないかとおっしゃったのですが、よく企業の本を読むと、面接のときにやはりしっかりあいさつができる人を採用したいというようなことをよく目にします。④、防犯の第一歩というのは、泥棒があいさつをされたら、ここでは仕事はできないなと思うそうです。やはりそういった防犯の第一歩につながる。それから⑤、危機管理の第一歩は、大阪教育大附属池田小事件のときに、犯人が侵入していたのに学校の先生方が一声もかけなかったと。それで教室まで行かれてしまったということもあります。また、⑥、あいさつは人やまちを元気にする第一歩。ここが一番、市内の活性化にもつながってくるのだらうと思っておりまして、そういったあいさつのことを話しながら、各学校でもあいさつ運動などを取り組んでもらっているところではあります。</p>
<p>市長 学校教育課長</p>	<p>学校教育課長、お願いします。</p> <p>学校ごとにそれぞれ取り組み方には工夫がありますが、PTA、母の会、健全育成会、民生委員、それから更生保護女性会、交通安全に関わる方々が、それぞれ朝のあいさつ運動に入っていたり、これは自主的であったり、学校と共同してあったりします。福島養源小学校では、前田委員にも立っていただいてごあいさつをいただいているという声がありました。以上でございます。</p>
<p>市長</p>	<p>このあいさつについてはですね、私が3期目に当選をして、最初の庁内連絡会のときにも話をしました。公務員は選挙に関わっちゃいけない、選挙活動をしていけない、特定の候補者を支援するようなことはしてはいけないですね。そういったこともあるのかなと思うのですけれど、私は今回市長になって初めて1週間選挙カーに乗りました。これまでは告示の日に1日だけしか乗っていませんでしたので、改めて乗って見ていると、市職員の反応が悪いというか、公務員は選挙活動をしてはいけないのだなというふうに、思っているのだらうなということを改めて実感しました。ただその分野とあいさつというのは、区分けしていいのではないかなと思ったのです。選挙カーというのは、対応してくれるということに非常に敏感に反応するのですよね。だからその反応がないことについても逆に敏感なのです。それを見ていて、もう少し反応があっているのではないかなと感じたときに私が思ったのは、これはきっと選挙について公務員が関わってはいけないという方に余りにも振れすぎていて、ただあいさつをするということは、まさにこのコミュニケーションの第一歩というところなので、もう少しあいさつは自由にやってもいいじゃないかなと思ってですね。それを役所の中で、市民の方々が来られたときに、しっかりあいさつをするようにやりましょうね。選挙活動のときは何だか市の職員が警戒しているように感じたので、そういったことが役所として感じられないようにしましょうねって話をしたものですから。今回のこの総合教育会議の中で、あいさつを含めてテー</p>

<p>前田委員</p>	<p>マにしたいと思ったところでございます。教育委員の皆様方はそれぞれ子どもたちと接する機会が非常に多くて、いろいろやっておられると思うのですが、実際にお感じになっている子どもたちのあいさつ、大人も含めたあいさつですね、そういったことをどのように感じられているのか、少しお聞かせいただければと思います。前田委員いかがでしょうか。</p> <p>やはりコロナ禍以降、声が小さくなってきているというのは事実のような気がします。本当に大きくて、おはようございますとか言って通っていた子どもたちが、なにか下を向いて小さな声になったという感じもしました。また最近は少し元気になりつつあります。私が思うに、子どもたちもですが、大人の人たちも、地域の会合とかでも、ずっと入ってきて、そっと座られる方がいらっしやったり、中には、こんばんはって言って入ってこられる方もあったりして、遅れた場合は静かに入ってくるのが普通だろうとは思いますが。そういう方がいらっしやったりするので、地域の大人の人たちも、もっとこうあいさつをして、顔見知りだからこそあいさつをして、他地域から来られた方と、何かおかしいねって思うような人たちがわかるごとすればよかるとにねと思ったりしているところです。一週間に3回ウォーキングをするのですが、そのときも最初の方ではあいさつされない方もいらっしやるのですが、何回も顔を合わせるうちに声をかけるようになってきたりとかするので、繰り返してやっていく、寛容の精神を持ってやっていかないといけないのかなと思っています。朝、学校の前に立っていて、車の送迎での登校が少なからずあるのですが、こちらからあいさつをしても、忙しかったり、わからなかったりで、ずっと行かれる方が多くて。がっかりして、こういう気持ちになったらいかんですかねって言いながら、あいさつ運動に立っています。顔を子どもたちに知ってもらおうとしています。顔を知ったらあいさつもできるだろうと思って、努力をしています。公園とかに遊びに来る子もいるので、その時はこちらから声をかけたら、必ず声を返してくれるようになりました。「だいこん」という名で読み語りをもしているのですが、私の名前は知らなくても「だいこん」さんだ、おーいとか言ってくれるようになってきています。子どもたちに顔をわかってもらうように、そして大人の人たちにもわかってもらうようにしながら、動いているところです。昼間は、ほとんど街中に大人の人たちが出てらっしやるのが少なく、おじいちゃん、おばあちゃんたちとかも少なく、あいさつをする機会はないのですが、それよりも、朝の5時半とか6時とか、ウォーキングする時間帯の方が多く出てらっしやるなと思っています。だけど、子どもたちもしっかりあいさつをやるという気持ちはあるような気がします。標語とか、市長さんがちょっと書いてありましたけど、1週間とか月間とか何か松浦市でも決めて頑張らしようっていうふうになったらいいかなあと思ったりしています。さっきも話をしていたのですが、企業とか事業所内でもあいさつを交わしましょうというふうになっていって、大人同士があいさつをもっとしてくださったら、子どもにもっと広がるかなと思ったりしているところです。以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。石黒委員、いかがでしょう。</p>

石黒委員	<p>はい。同じような感想なのですけれど、まず私が市役所に入ったすぐの新人研修では、あいさつは先手必勝だと習ったのです。とりあえず先に自分から声をかけなさい。そういうのもあって、まずコミュニケーションはあいさつからだと思っています。私の子どもたちが歩けるぐらいになったときに、山登りをするようになったのですけれど、山登りでは必ずすれ違いのときにあいさつをする。知っている人でも知らない人でも。それが山登りの慣習ですね。それであいさつをさせたくって山登りに連れていきました。まずは家庭から。そうやってあいさつの習慣を付けさせるといことが大事かなと思っています。</p>
市長	<p>吉住委員。吉住委員は子どもたちへの指導にあたっているので、そういった点も含めていかがでしょう。</p>
吉住委員	<p>チームに関係ある事業所へ先日行ったのですが、大人がまずあいさつしないですね。その大人の人たちにも子どもがいるのだろうけど。まず、大人があいさつをして子どもにその姿を見せてさせるという感じにしないといけない、子どもってやらされているような感じじゃないですか。自分も陸上の指導をしてきて、競技場へ朝の7時半前に着いて、準備をしている中で、子どもたちが早く来るのですよね。清々しくおはようございますという子は記録が良い子たちです。素直にあいさつができる。出ない子っていうのは、ちょっと控え目な子で、記録があまり出ない。鷹島の子どもたちにも言っていること、松浦の子どもたちにも言っていたのですが、競技場に来たときから、2時間程度はおはようございますと各先生たちでは言うように、必ずあいさつするように、それを習慣づけすれば、必ず自然と出てくるよって言っていたら、やはり高校に入ってから、今は素直に出てくるようになります。</p>
市長 氏山委員	<p>氏山委員いかがでしょうか。</p>
	<p>あいさつは家庭からというのが私にはあって、あいさつをしっかりしなさいっていうのは、子どもが小さい頃から言っているのですけれど、コロナ禍以降に声が小さくなったというのは、給食も黙食で食べていた時代なので、声を出したらいけないというのがあって、子どもたちも、コロナ禍以降、出せなかった部分もあったので、そこは大人がまず手本を、子どもにあいさつを促す前に、まずは大人からこんにちは、おはようと元気よくあいさつしたら、子どももしているのだと思ってあいさつするし、私もうみのかぜ公園ができて、よく歩いているのですけれど、そこでも元気に遊んでいる子どもたちとか、ウォーキングしている人たちにもあいさつをしたら絶対返ってくるし、そこはあいさつをやり続けるというか、普通のことなのですけどね。それと、今22歳の息子がいるのですけれど、その子が中学生のときに、あるおじさんにあいさつをしたのですよ。そしたら、何も返ってこなかったから、もう一度こんにちはと言ったら、うるさいって。元気よくあいさつしたらうるさいって言われたって。だからとりあえず、知らない人には1回だけでいいよって。聞こえなかったかもしれないし、機嫌が悪かったかもしれないので、そこはもう1回だけでいいよって教えたのです。あいさつをして怒られるというのがついでしまうと、子どもたちも恐怖というものもあるし、学校の中だと、子どもたちも、こんにちは、こんにちは、とすごく元気よくあいさつするけれど、1歩外に出ると、この人にあいさつをしていい</p>

<p>市長</p>	<p>のだろうか、どうなのかという、顔を知っていれば大丈夫と子どもたちもあいさつをしてくれるのですけれど、知らない人だったら勇気がいると思うので、まずは大人からというのを思います。</p> <p>そうですね。私は街頭指導を去年の暮れぐらいからずっとやっていたけど、最初はやはり子どもたちの声って出ないのですよね。ずっと立っていると、だんだん声もかけてくれるし、外国人の実習生が自転車で通るのですよ。その人たちにもあいさつをしていたのですが、今はもう、彼らもしっかりあいさつをしてくれるようになるのですよね。顔が見える関係になると、やはりみんなあいさつをするのだろうなと思うのですよね。とりわけ、最近はいろんな犯罪とか多くて、子どもたちも警戒をしているのだろうなというのはあるのですけれども、さっき氏山委員がおっしゃった、コロナの時の黙食とか、黙っておかなければいけない、しゃべったらいけないっていうのが2年間か3年間ぐらいあって、多感な時期を過ごした子どもたちにとってみれば、負担になっているのかなという気はしますよね。でも本当に子どもたちがしっかりあいさつをするようになるには、家庭からっていうのはもう当たり前なので。とりわけ松浦市では、小学校区単位のまちづくりをやっている中、色んな世代を超えて繋がっていきなさいいけないと思っているのです。このテーマの最後のゴールは、将来の担い手をどう作るかっていうことなのですよね。子どもたちが、地域の中でしっかりあいさつをするような環境を市民の皆さんと一緒に作らなさいいけないと思うのですよね。まち協が間もなく星鹿もできますので、9つの小学校区のうち7つ目ができる状況です。そういった状況でできるのはいいのですけれど、その中心的な担い手が私たち60代より上の人たちが殆どなのですよ。福島のように40代の方が会長になっているなんて、あんな画期的なところはないですよね。でも担い手、今の世代があと10年やってくれたとした時に、その間にしっかり次の世代を育てておかないと、この活動も続かない。松浦市のまちづくりの持続可能性も失われてしまうのではないかなという思いがあるものですから、コミュニケーションの第一歩のあいさつを、どう市内で習慣づけていくのか。何か考えなさいいけないなというふうに思っているところです。</p>
<p>教育長</p>	<p>今、まち協の話がありましたけれど、学校もコミュニティスクール化が結構進んでおりまして、地域の方が学校経営にも参画していただいております。学校だけでやってもどうしようもないと思うのですね。ですから家庭教育、社会教育、学校教育が一体となって、そのためには家庭の力も必要、PTA、健全育成会とか、まち協も。コミュニティスクールは目標を決めましょうと。つまり学校も地域も一緒になって、その目標に向かって子どもたちを育てていきたいと思いますというのがあるものですから、例えばあいさつを1つの目標にしてもらうとか、そのあいさつを目標にしたらどういった取り組みをしたらいいとか、そういうのをやってもらったらなあと思っておりますので、働きかけをしていかないといけないなと思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>まち協は市長部局、政策企画課がやっていますが、主体は住民の皆さまなので、行政側は指導的な立場じゃないのです。あくまでも住民の皆さんが主体的に考えていただいて、それを実現するためにサポートしな</p>

<p>前田委員</p>	<p>がら進んでいくというのが役所の立場なのですが、やはり一番の課題なのは、先ほどから申し上げている通り、何とかスタートはしてもらうけども、これを次の世代にどう伝えていくのかというのが、本当に大きな課題です。今回卒業式に小・中学校3校に行きました。中学校、小学校、いずれも福島養源小学校と福島中学校に行きました。あと1校は今福中学校ですね。福島小中は、地元の皆さんの出席が多いのですよね。あれは何かあるのかなと思って。地域性というか、小学校の入学式、卒業式は平日ですので、平日に来る人というのは限られてはいるのでしょうけども、たくさんの方がおられているのですよ。何か秘訣があるのでしょうか、前田委員。</p> <p>以前からなのです。私が勤め始めた頃から80人の来賓の方いらっしゃる。今は60人ぐらいに減っていますけれど、80人ぐらいの座席をどう作るのか悩んでいたのです。教頭の時はおし忘れて怒られたりもしました。昔からです。そして民生委員の中でも、「この日が卒業式だから皆さん来ていますよね、案内状は」って言われて、「はい来ています。」そして「楽しみにしている」っておっしゃっています。60代、70代、中には80代の民生委員の方もいらっしゃるのです。そういう方たちが、自然と福島を大事にせんばいかんという思いを持っていらっしゃるような気がします。先ほど教育長さんから出ましたコミュニティスクールの中に、今度はまち協の会長さんも入れていこうかという話をしているので、コミュニティスクールもどちらかといえば高い年齢層なので、若い人たちがやりたいことに私たちがサポートしていくような体制を作るような形がいいのかなと思います。そして小中学校とも、本当に地域のため、外に出てきてくださってやってくださる。ここ何年か来てくださって、ありがたいなど。文化祭のときも音楽の担当の先生が準備に入ってください、ありがたいと思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>まちづくり運営協議会は小学校区単位ですから、学校との連携は欠かせないですね。でも、本当にあいさつをどう定着化させていくか。まち協の取り組みを進めていく中で、あいさつは非常に大切というのを改めて伝えていかないといけないなというふうに思います。ありがとうございます。では、2番目の奉仕活動の方を少し深掘りしたいと思うのですが。奉仕活動も、実はまち協に繋がってくるのですよ。ボランティアですべてを成し遂げるのは限界があると思っています。だから必要経費という部分は、それぞれ受益する人たちが負担してもらってということにしないといけない。高い負担ではなくて。ただそれでも、担い手になっていただく方は、それを生業とするような収益では決していないのですよ。やはり奉仕作業、ボランティアの意識というのがないといけないなと思っています。そういった意味でも、この「奉仕活動で心みがく松浦」は、本当に市民全体で取り組まなければいけないなと思っています。氏山委員はご存じだと思うのですが、発電所のJ-POWERの発電所の前に日の前バス停ってありますよね。昨日も踏切の前のところ、J-POWERの入口から深見石油の前までの数百メートルは、ごみ一つ落ちてないぐらい綺麗なのですよ。何故かという、毎朝掃除している人がいるのです。以前、松浦市で表彰した女性の方がいらっしゃって、この方が高齢になられたからだと思いますが、今はその方</p>

	<p>ではなくて男性の方が今朝も掃除されていました。すごいですよ。あれが本当に奉仕作業なのですよ。前の女性の方が、自分はバスを使う。自分が使うバス停の周辺が散らかっているのは嫌だからということで、奉仕作業をされていた。今、バスは朝と夕方の2往復しかないのですよ。昼間の時間は通らない。だから今は利用者ではないのです。地域の皆さんが、自分たちの場、それが繋がってきているのです。これをみんなができる範囲で、例えば100メートルずつぐらいやってくれば、もっと綺麗になるなというところがあってですね。あそこはそんなに散らかる場所ではないといえないです。ただ、本当に今度通られるときに、気をつけて見てください。海側の歩道は本当にJ-POWERの入口から深見石油の前まで綺麗です。ああいうふうなことが、しっかり定着できないかなという思いがあって、我々もそういう熱心に取り組んでいる方々は、本当に特功という意味での表彰をしたいと思っているのです。昨日も20周年で皆さまにご出席をいただいて、感謝状を送り、表彰しましたけれど、あんなことをしっかりやらないといけないと思うのですよ。その方を表彰するというのは私が言い出したのです。あの人を表彰したほうがいいねと。でもその時に、私はその方には気づいている。でも私が気づいてないで、同じようなことをやっている方が、他に市内にいらっしゃるかもしれない。そういった方々は、みんなが気づいて、申請してもらって表彰できるような環境を作りたいので、表彰したのです。そういったことをやるのが、皆さんが奉仕活動に参加しやすい環境づくりかなと思っているものですから、是非そういった意味でも、教育委員の皆さま方から、いろんなアドバイスをいただければと思います。もう皆様方が、ほぼ奉仕活動をなさっているような感じなのですけど。今度は氏山委員から、いかがでしょうか。</p>
氏山委員	<p>昔、コロナ禍前の御厨小中は、美化活動の一環として、学校から自分たちの地域に帰ってゴミ袋持って、自分の地区の掃除をしていたのですよね。大人も参加して、保護者も参加していいので、私も一緒に行っていましたね。そうしたら子どもたちは宝物を探すかのように集めるのですよね。草むらに行って空き缶を拾って、たばこの吸い殻とか、すごい勢いで拾っている。結構楽しく活動できていたのです。コロナ禍後はしてしてないのですけども、例えば子どもとか参加するとしたら、例えばラジオ体操カードみたいなカードがあって、そこに奉仕活動したらスタンプ。たまったら、何でもいいのですけど、缶バッジとかがもらえるよとか、奉仕と少し違うのかもしれないけれど、そういう楽しみみたいな感じのものを作ると、子どもたちも、やろうやろうという感じになるかなあと私は思います。</p>
市長 吉住委員	<p>吉住委員、どうですか。 今はやっているかどうかわからないけど、うちの地区は、海の日に子どもと保護者が出て奉仕作業をする。海水浴場までの道と海水浴場を掃除する。そのあとに親子でバーベキューしたりしていました。今はどうなったかわからないけど、コロナ禍以降しているかどうかかわからないです。</p>
市長 石黒委員	<p>やはりコロナ禍ですね。石黒委員、いかがでしょう。 県民大清掃。それに合わせて地区でも掃除をされていますけど、私の</p>

	<p>実家の地区では、子どもたちも一緒に、その家全員が清掃に参加していたのです。ゴミ袋ではなくても、紙袋でも何でも持って家の周りを掃除するとか。それが今の高野では家庭で1人が出ればいいとなっているので、それをみんながその日に作業するようになったら、その日は町全体が掃除をしているというふうになり、松浦市はその日1日だけでもすごく綺麗な日になるのかな。清掃の日がバラバラなのですよね。だから8月の第1日曜日とか、6月の第2日曜日もある。年2回あるので、空き缶キャンペーン期間が6月ですね。佐世保に何年前に行ったときは、その日は国道の植え込みのところもやっていたのですよ。だから、佐世保市はすごいなと思って。至るところで掃除をしていた。だから、松浦市のそのバラバラっていうのは多分地区の事情とかではあるのでしょうけれど、せっかくの県民大清掃なので、その日にできたらいいなと思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>そうですね、県民大清掃の旗振り役は長崎県なのでしょうけれど、その辺も最近どうなのかなという気がしますね。県政番組とかでやっていますかね。</p>
<p>吉住委員 市長 前田委員</p>	<p>全漁連はやっています、海のですね。 海取り組みですね。前田委員いかがでしょうか。 私も一斉に掃除をする日を決めて、どこの地区も協力をし、やっていったらいいかなと思います。福島の方でも、先ほど氏山委員さんが言われたような取り組みを、私が40代ぐらいですか、その頃は地区ごとに、子どもは子ども、中学生は中学生、それから子ども会、そして大人も何人も出て、草刈りと缶拾い、ごみ拾いをして、公民館にそれを集めて、それを全部回収する人がいて、というような取り組みをずっとしていたのですけれども、このところは5月の第2第3とかその辺の日曜日で一回やって、それも各家庭から1人ずつ、2時間ぐらいで終わってしまって、前はもう少し頑張っていたけどねと。私たち、作業する方も年を取ってしまっているところもあるのですけれども、みんなが一斉に頑張ろうという気になってくださったらいいだろうなという気はしています。先ほどあったまちづくりの中でも、スポゴミ。どこでも今やっているもので、そういうのも取り組んでやってみようかっていうふうな話が出てきたりはしているのです。他にも福島をいくつかに分けて、月1回ずつこう分担して行って、掃除をするというのはどうだろうかという、アイデアだけは結構出ているのですが、取り掛かりやすいのからやったらいいのではないかなと言っているところです。私の生家がある壱岐では、月に1回ぐらいずつ、影切りがあったり、高所伐採があったり、道路の草刈だったりとか、そういうのを月1回ずつはやっています。だから、年1回とかいわず、せめて2回、県が1回なら、もう1回は市でこの日をしましょうとかにして、次の年度の計画を立てるときにはなるだけそこに近いように区長さんが頑張っってやっていくとか、5月なんかは中総体、6月は高総体があったりしますので、スケジュール全体を眺めてやったらいいかなと思っています。昨日と一昨日、まちづくりのイベントがあったのですけれど、高校生が何かお手伝いとか声かけて、10人近くが、準備から、机とか椅子とかテント張りとか、本当に男子が中心になってやってくれて、みんなありがとうとか声をかけたりして、さわや</p>

<p>市長</p>	<p>かに声が返ってきたりするるので、私はもっと企画段階から子どもたちを入れて、中学校の生徒会とか、小学校の児童会とか、そういう子どもたちの声かけで、やってみようかという人も入れて、一緒に話し合いとかから進めていったらどうかと思いました。今回の高校生はありがたかったです。じいちゃん達、ばあちゃん達、80代が持ちきれないものを、僕たちが運びますと言って運んでくれて、ありがたかったねとつくづく思いました。</p> <p>この奉仕活動は、まち協の皆さんにも、本当にいろいろ頑張っていたいでいるのですけれど、まち協も、結局自治会とかになっていって、自治会に加入されない世帯ってというのが結構あってですね。そういったところの子どもたちが、地域の活動をするときに、どんなふうに関わっていくのだろうなっていうのが気になっているところなのですよ。先ほどからお話がある、子どもたちと一緒に奉仕活動とかをというときに、大体自治会ごとになりますよね。自治会の回覧版とかで来ますよね。とりわけ志佐小学校区、御厨小学校区も増えてきました、未加入世帯が。志佐学校区とかだと、都会化が他の地域に比べて進んでいるので、入らないという方とかがいらっしゃるのではないかと。そういった子どもたちにもちゃんと声はかかるのだろうか、参加できるのだろうかというところを少し危惧しているのですけど、そのあたりというか、わからないですよね。</p>
<p>教育長</p>	<p>いいでしょうか。その話の前に1つ紹介ですが、志佐小学校。朝からですね、週に1回か2回、委員会活動の1つで、5、6年生が6、7人。先生が1人ついて、ごみを拾って回っているのです。エミネントの前とか、あの辺を。良いことしているので、長崎県教育委員会で善行表彰というのがあって、応募をしなさいとあって、応募したのですけどなかなか対象にならなくて、私は対象になると思っていますのですが。そういった活動を頑張っています。学校教育全体を見たときに、しっかり特別活動の学校行事に、今でも勤労生産奉仕的行事というのがあるのですよ。これは小学校、中学校もあって、その中にはボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるようにすること。ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるようにすることと書いてあって、例えば小学校だったら地域社会の清掃活動とか、まさに帰りがけ、公共施設等の清掃活動。あと福祉施設との交流活動、例えば、慰問したりして交流するとか、そういったこともボランティアの一つです。中学校には、地域社会への協力。例えば、こんなのをやったらいいなと思うのが、ふるさとまつりとかに中学生の何人かが行って、企画の段階から参加するとかですね。こう書いてあるので学校がやってくればいいなと思うのですけれど。あとは学校内外のボランティア活動。そういった例示も示してあるので、地域だけに任せるだけでなく、やはり学校もこういったことに関わると。ボランティア活動は教育課程に位置付けてあるので、できるかなと思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>そういった意味でも小学校区単位のまちづくりの中心、拠り所は小学校なので、小学校とまちづくり運営協議会の連携っていうのはもう欠かせないと思うのですよね。福島のプレイパークの取り組み、私も土曜日の2時半ぐらいに行ったのですけれど、本当に素晴らしいと思うのが、</p>

世代を超えて皆さんが参加しておられるというか、ゲストとして来る側じゃなくて、迎える側の人たちが、多世代なのです。世代を超えているのですよね。元日ノ浦の区長さんとか、現区長さんと一緒に受付にいらっしゃいましたけど、かなり高齢ですけどいらっしゃるのですよね。ああいう方々とか、子どもたちも、さっき前田委員がおっしゃるように子どもたちも運営側にいたりとかですね。ああいうのが一番理想で、奉仕活動に繋がっていくことが、本当に松浦市が今目指している方向性は、子どもたちが、そして大人も奉仕活動、本当に負担にならないことですよ。自分もやっばりこう、プラスになるような、お金って意味ではなく自分も行って良かったなと思えるような環境を作っていかなければ、多分この活動は長続きしないですよ。誰かの負担で成り立っていたら、絶対終わるのですよね。特に中心的な人が頑張れば頑張りがすぎるほど、その人がいなくなると、担い手がいなくなってしまうので、大事なものは、そのリーダーの皆さんが、上手に任せるという環境をつくることだと思うのです。任せられない。常にその人がいなければ、組織が動かないはいけないと思うし、さっき前田委員がおっしゃった、年齢の高い方々は、若い人たちに任せて、そして助言をしていくという役割、大切な役割があるので、そちらの方に主眼を置いていただいて、若い人たちがやりたいということをどんどんやらしてもらおう環境というのが必要なと思っています。先輩方、本当に頑張っておられるし、今でも体が動くので第一線におられるのですよ。でもこの方々がずっと第一線にいると、次の世代が入れないですよ。難しいのですよ。この辺りを本当にバランスよくやっていくということが、まちづくりの大切な基本だと思っています。ちょっと関係ないかもしれませんが、御厨小学校区のある地域では、息子が所帯を持って、子どもができたりますと、地区の役員とかも息子たちの世代にバトンタッチなのです。それが地区のルールなのです。だから地区の役員さんたち若いのです。40代ぐらいの地区の役員です。その地区は3世代同居がものすごく多いのですよ。子どもの数もびっくりするほど多いのです。絶対あそこは一世帯2人以上いますよ。合計特殊出生率で言うなら松浦市で多分トップかもしれない。そこは次の世代に譲っていくという地域のルールがあるのです。そういうのを今からまち協の中でも作っていかないといけない。だから、立ち上げていただいている皆さん、会長が私より先輩がほとんどです。でも、そういった方々がいないと、最初立ち上がらないのですよ。人々を集めて、こういった会を作ろうというときには、ある程度求心力ある人が声をかけないと人が集まらない。ですから、そういった方々がいらっしゃるから組織はできるのですけれど。全部できたら、次は若い世代につないでいく。そのためには、そういう活動に皆さんが入りやすい環境を作って、地域での奉仕活動。なんかハードル低くやらなければいけないと思うし、自治会に参加しない方々が、そういった活動にも参加しないってことだけは絶対避けなきゃいけないなと思っています。自治会参加も強制できないのですけども、そういった方々も、こういった地域でやる活動はウエルカムでとなればいい。さっき黒川教育長がおっしゃったように、まずは学校での取り組みとか、そこが一番、入口としてはいいかなと思います。いかがですか。皆さん方から何かそのあ

<p>学校教育課長</p>	<p>たりのご助言いただければと思うのですけれど。どうぞ。学校教育課長。 今、委員の皆様もおっしゃっていらっしゃったように、これまで長きにわたり、松浦市は教育の中で奉仕活動をやっていたのです。でもコロナ禍を経て変化がありまして、中断されてしまっているところが幾らかあります。その中でも、今現在、まだ学校教育活動を含め、いくつかやっていることがあるので4つ紹介したいと思います。まず1つ目は、総合的な学習の時間を活用して、海岸清掃を行っている学校があります。2つ目ですが、花いっぱい運動を全校で取り組んで、6年生の分は、そのプランターに育てた方にメッセージを添えて、地域の公共施設等に置いて皆さんに楽しんでいただくという活動をしております。3つ目は、休日に日曜参観というものを行っている学校なのですけれども、その日曜参観に集まってくる時に、各地域の方も、保護者も、児童も一緒に登校をしながらごみを拾ってくる、という活動をした後に日曜参観を行う。4つ目ですが、小中合同でこれはいいなと思っているのですけれども、小中合同で、地域の方も、学校の先生方も、平日の午後なのですけれども、それぞれ地区に分かれて、地区の公民館と公民館周辺の掃除を行っています。参考になれば。</p>
<p>市長</p>	<p>先般、ひまわりプロジェクト。ひまわりを植えましょうという。元県の子ども政策局長だった浦川先生が、ひまわりプロジェクトで松浦市に来られまして、それはフードドライブとかフードロスの関係でいろんな取り組みをしたいということで、松浦市でもやりませんかという話で来られたのですけれど、その時におっしゃったのが、やはり子どもたちには、小さいときから奉仕活動とかをどんどんさせないと駄目だとおっしゃったのですよね。そういったことをする、ただその中で、育成会が以前と比べると活動そのものが縮小してしまっている。そういったことも要因なのではないかというのをおっしゃっていたのですよね。だから奉仕活動の主題、学校と育成会、そういったところかなと思うのですけれど、そういった点も含めて、それぞれの皆さんの活動の中で、お気づきの点、これからこういったことやったらいいよって何かあればご教示いただければと思うのですけれどいかがでしょう。</p>
<p>氏山委員</p>	<p>今も、小学校中学校単位では、年に1回、PTA、奉仕活動、学校の中とか学校周りとかを綺麗にしている奉仕活動はやっているのですか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>今も夏場を避けるようにして行われています。もう1つ、PTAの人数が少ないという学校は、地域版を作っている。学校版と、地域でという地域版の2回ですね。</p>
<p>市長</p>	<p>調川のまち協は、まち協として小中学校の掃除に行くというような活動をなさっていますね。もともと自治会長さんたちの連合会でもやられたものが、まち協に移行されているのかもしれないけれども、非常にいい流れなのですよね。そういうものに、自治会に入らないご家庭の皆さんとかにも参加していただけるような環境づくりっていうのが必要かなと思いますね。いかがですか、鷹島は。</p>
<p>吉住委員</p>	<p>私たちの小さいときは、育成会もビン集めとかして、そのお金を貯めて、みんなでバーベキューしたりしていましたね。それが今は全然ないのですね。子どもの集まり、子どもの遊びとか、何をして遊んでいけるのだろうと思ったら、外でもゲームしている、スマホをしている感</p>

<p>市長 石黒委員</p>	<p>じですね。外だったら違う遊びがいっぱいあるよ。夏場だったら海。私も小さい時から魚釣りに行き、いろいろしていました。そういうことを知らない子どもたちが多すぎてですね。</p> <p>石黒委員、いかがですか。</p> <p>子どもはまず家庭で育っていくのですけれども。そしてさらに地域の中で成長を見守っていくという活動をしていけたら、それがさっきのあいさつ運動にも繋がるし、そうしたら地域を愛するようになるので、地域の奉仕活動とかにも自然と関わっていけるようになるのかなと思います。</p>
<p>市長 前田委員</p>	<p>前田委員。</p> <p>子どもたちと一緒に参加させるのに、ある子どもが中心になって、声かけをしていって、そしてまたその人がまた声かけをするというような、そういうふうなパターンと、小学校中学校にお願いにお願いしたパターンと、いくつかパターンを作って、重なってもいいからということで、長い時間かけてお願いに行き、知っている子どもたちにもお願いだからねっていうのを去年から言っていて、それから広げていってもらって、中にはやはり元気のいい子ばかりではなくて、静かな子も来てくれたりとかしていたので、子どもたち同士の関係からも、いろいろな子がこう、来るのだなと思って、幾つものパターンで、子どもを呼び寄せるといのは大事かなと思ったりしました。大人がいっぱい声をかけていく。そして、おはようとかこんにちはじゃなく、「おう」、だけでもいいし、元気で昨日よく頑張ったねとか、こうおっしゃっているから、そういう辺りから繋がっていけたらいいかな。案外よく声をかける人には、子どもから、「うわー」って言ってから、声をかけてくるので、そういう関係に持ってこられたらいいなと思いながら、私はいつも見させてもらっているのですけど。親御さんたちも、働いてらっしゃるから土日になったら買い出しにどっかに行くって言ったら子どもも一緒になって買い物に行くというのもいいでしょうけど、今日、地域の行事があっているから、ちょっと一緒に行こうかって、誰かと一緒に行けば、親御さんたちも、子どもたちが一緒だったらすんなり入っていけるところがあるので、そういうふうな、やり方をしてもらったり、隣近所のおじいちゃんおばあちゃんたちにも、餅つきとか、ちょっと見に来てくれんねとか言ったりとかですね、声をかけていたら、来られたりするの、行きたいけど行けないっていう人たちも何かいらっしゃるのかなあと思っています。そんなところです。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。今回は非常に難しいテーマだから、先ほど申し上げた通り、ゴールは、松浦市内でずっと設立を目指しているまちづくり運営協議会。これを10年先、20年先つないでいくためには、今いろんなことをしなきゃいけない。その原点があいさつと奉仕活動かなと思ったところです。今日いただいたご意見を、しっかり市長部局としても、改めて整理して、まち協を担当している政策企画課を打ち合わせに行かせたいなと思います。先ほど、前田委員がおっしゃっていた中で、1つご紹介なのですけれど、松浦市に、まち協の取り組みをコーディネートに来てくれる、長崎市の人がいるのですよ。その人は長崎のまちづくり運営協議会の事務局長している人なのですけれど、その地域は、地</p>

	<p>域のカレンダーを作る。カレンダーに全部、PTAの活動とか全部入れる。例えばこの日は中体連ですよとか、ここは何とかですよ、入学式はいつですよと全部入れている。それを販売しているのです。だから、まち協のスケジュールを入れるときに、この日はこういうのがあるから駄目だねというのが選べる。それをまち協で作っているのですよ。ですから、先ほどのようにまち協がちゃんと動き出して、それぞれの団体の活動をみんなが見られるようになれば、日程調整とかもしやすいし、この日せつかくあそこであるなら、これに合わせてとかいうのができるのではないかなというのを、私も思っていて、紹介しておきます。本当、是非やったほうがいいと思うのですね。各学校区で、そういった活動を立ち上げることが目的ではなくて、立ち上げて、動いて次につないでいくというところまでやらなければいけないと思っていますの。私自身も、いただいているこの3期目の任期は、まず全ての小学校区に、まち協を設立していただいて、そしてそれが次につなげるような環境までつくらなければいけないと思っていますので、また機会があれば、皆様方にもお知恵をいただければと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>最後にひとついいですか。やはり意識づけとか、啓発活動というのが必要だとは思いますが、この「あいさつで心かよう松浦」、「奉仕活動で心みがく松浦」このフレーズ2つを、市民がどこまで知っているのかなと思うのですね。実は学校教育課がやっている4月1日、他市町から来る教職員の方を集めて、服務宣誓するときは、このフレーズのもの立ててやっているのです。他にも新規採用教職員の研修会。その時ぐらいしか使っていないのですが、あと、この幟を学校とか、公民館とか、図書館とか、文化会館とか、水中考古学センターとか、教育施設には少なくとも常時飾っておくとかできれば、市民挙げて、「あいさつで心かよう松浦」、「奉仕活動で心みがく松浦」ということが浸透して、覚えてくれるのではないかなと思うのです。そういった幟あたりをどうかとは思いますが。知らないですよ。多分。言葉自体はですね</p>
<p>市長 吉住委員</p>	<p>そうですね、必要でしょうね。</p> <p>補足いいですか。私は今年度まで地区の班長でしたけど、回覧不要という家がいっぱいあるのですよ。15世帯ぐらいあって、3分の1は回覧不要です。ですから幟とかいいかもしれません。全戸配布は、班長が全部配るのですけど、回覧は持っていくのが高齢だから大変ということです。</p>
<p>市長</p>	<p>啓発が必要ですね、実は今、会計課に検討をしてもらっているのがあって、デジタルサイネージを松浦市役所につけたいと思っています。これはですね、福島、鷹島には、市役所本庁につけたからといって届かないのですけども、冒頭に申し上げた通り子どもたちが優秀な成績で全国大会に行くのですね。今回はなぎなたで田川君が優勝とかがあります。そうすると、生涯学習課が、そういった子どもたちを激励するために、立て看板を作ってくれるのです。役所のエレベーターの横に立つのですよ。でも、私たちは日々登庁しているので見るのですけれど、市民の皆さんは役所の中に来ないと見ることができないし、市役所の市民課の窓口ですつと行く人は目にも止まらないのではないかなと思っているのですね。せつかく市内の子どもたちが頑張っているし、色んなことをもつ</p>

と見える化をしたっていうことがあって、デジタルサイネージを庁舎につけたいと思っています。この中でも、教育長がおっしゃる「あいさつで心かよう松浦」、「奉仕活動で心みがく松浦」を流すとかもしなければいけない。サイネージはずっと流れていきますから、色んなものを流せるのですよね。例えば春の交通安全週間ですとか、火災予防週間のスローガンとか流すとか、タイムリーに、今日何か新しいニュースが入ってきて、市内の誰々が優勝したとかであれば、その日の夕方にはそのデータが流れるとかね、そういったものを機動的にやりたいなと思っていて、市の要綱ですかね。垂れ幕は全国大会とかで優勝したとかになると、下げるっていうのがありますよね。で垂れ幕って発注してから作るまでに時間がかかるじゃないですか。例えば、松浦市の人ノーベル化学賞をとりましたとかあったとするでしょ。タイムリーに下げるためには、先に作っとかなきゃいけないですよね。だからそうじゃなくて、サイネージだとデータさえ打ち込めば、その時に速やかに流れる。こういったデジタル社会ですから、色んな方々に見える化をする。では、福島、鷹島をどうするかという意味では、幟をしっかり立てるとか。そういうのも必要ですね。福島は庁舎を作るからやっぱ何かあるかもしれませんね。ありがとうございます。今日、皆様方に「教育のまち松浦」をつくるための取組みについて、様々なご意見をいただきました。ありがとうございました。市長部局としても、持続可能なまちづくりのためにも、大変重要な取り組みだと認識しておりますので、引き続きどうぞよろしくします。今日はどうもありがとうございました。